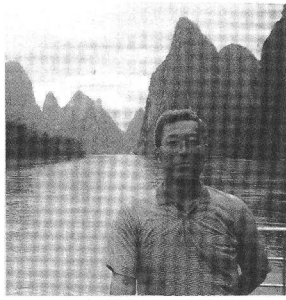


[illegible]

毎日は、ついでに、
高血圧、不整脈、
めまい、以外には、
ん、八十六才、
平井 威司

東京都
平井 威司



お陰様にて日々明るく
楽しく元気に過して
おります。
東京都
久井 敏

にびに 忘のび先
はり満青れ交自し難米
疑過足春信治い同寿に
問ごしをこと会思輩に
をすて夢と勉内いがな
感老い見が強パーいり
じ人まで多会ソ入な、
まをすチくをコでく語
す見がヤ、始メネ、り合
。て、レ難メネ、り合
、のン行たッ、つ
時んジ。がト わた
東京都
足田 久雄

ご一遺こし防とと少
し少教れて災語志し六
た欲をかい(らしで年
い「深らまをつ、も余
とにくはす立て若世の
考徹心、。ちNい間民
えしに御古上P学に間
てて刻釈希げO者ご勤
い毎み迦を東(や恩め
ま日、さ迎奔減そ返の
すを一んえ西災のし後
。過層のた走・卵を、
東京都
日 裏 昌 宏

機因紙、信友会創立四十五
周年のめでたうござい
ます
東京都
古田 正一

つとす勤長し電な間08
て繁め沼代工つお4
いし て商理をた世に11
ま孫い争店退古話に年
すや達まにの職河に年



東京都
右澤 齊志

るの特法信年隊
る今と許方ごこの設
よう後際管情式にま立
祈も、限理報・機進は昭
念し、が等器化まの和
します。あ算番し事二
ます。すま々・技子ま情九
進歩すせん・教・運しは年
東京都 陽
福田

人生訓、上、下、不、
を座おに信友時代、
を愛情、深、い、直、上、司、と、管、
の交り、を、頂、いた、隊、友、を、懷、
く夢見、る、八、十、七、の、毎、日、
す、四、十、五、周、年、の、お、祝、い、
申、し、上、五、周、年、の、お、祝、い、
ら、れ、た、信、友、の、ご、福、を、
新、ら、れ、た、信、友、の、ご、福、を、
隆、昌、の、ご、福、を、
東京都
平山 三博

循環系、
マ、合、い、な、が、ラ、
マ、合、い、な、が、ラ、
マ、合、い、な、が、ラ、
マ、合、い、な、が、ラ、
マ、合、い、な、が、ラ、
マ、合、い、な、が、ラ、
マ、合、い、な、が、ラ、
マ、合、い、な、が、ラ、
マ、合、い、な、が、ラ、
マ、合、い、な、が、ラ、
東京都
三 石 勉

平成 18 年 5 月陸上自衛隊を定年退職し、2
年半が経ちました。新聞やテレビを賑わす
「熟年離婚」という言葉に少なからず恐れを抱いて、妻への気配り、思いやりを現役時代以上に腐心しています。いつまでも夫婦一緒に元気でいることが一番だと思いますから。
東京都
三 浦 慎 平

く生マ自24業現最昨
お慰イ衛下本在後年
願命、隊で部、積退官通
い頑、の勤、務新水官信
し張、み務宿ハ、信保全
まり実なレ宿ハ、信保全
す、現、さ、マ、ウ、信保全
す、現、さ、マ、ウ、信保全
す、現、さ、マ、ウ、信保全
す、現、さ、マ、ウ、信保全
東京都
江 功

元氣で、
り、と、
り、と、
り、と、
り、と、
り、と、
り、と、
り、と、
り、と、
り、と、
り、と、
東京都
保 泉 清

近況報告
祝創立四十周年、
十、六、歳、の、立、派、な、後、期、
十、六、歳、の、立、派、な、後、期、
十、六、歳、の、立、派、な、後、期、
十、六、歳、の、立、派、な、後、期、
十、六、歳、の、立、派、な、後、期、
十、六、歳、の、立、派、な、後、期、
十、六、歳、の、立、派、な、後、期、
十、六、歳、の、立、派、な、後、期、
十、六、歳、の、立、派、な、後、期、
東京都
八 木 輝 彦

方、と、
方、と、
方、と、
方、と、
方、と、
方、と、
方、と、
方、と、
方、と、
方、と、
東京都
森 輝 雄

康一にい息れ年り本会
管緒感ゴす国毎ま部社
理に謝ルる会にすのに在籍
の楽しフーに悪が手いし
力むつでも、るす隊にな
をた旅愉下迷る友にが
続のをめで政状入しら
中自家る飛治とね率で友
す健と遇な嘆じがお会
東京都
持田 修

やきもの収集と温泉めぐりを決意して
から25年が経ちました。
最近はやきもの展を開催したり、
「千の源泉めぐり」市民大学講座などを
やって楽しんでおります。
(武蔵野学院大学大学院教授)
東京都
望 本 元 道

謹啓。平素無沙汰を嫌んでお詫び申し上げます。
平成二十一年二月二十四日、退職後十二月二年と四月私事
（八千四百四十三日）その後仕事も約十一月間勤めて退職し、自
由人として三月四日（西暦七月十五日）付に定まらず、自由に
人生二千七百六十六万七千六百七十七日に生きてきました。
この間、多々の方々へ厚情の賜物と深く感謝する共に厚くお礼
申上げました。さて、自由人の水泳（時間）及び「三回の老人福
社」デズ（二時間）、自由人の水泳（時間）及び「三回の老人福
祉施設」のボウリング（劇団吹奏楽のマジック）四分六分と定額
にして二百四十日はがき、同期生講習会を初め色々な分野からの要請等
も見やり、累計昨年よりも数えませんが、四年前から地域の「一
也百千里」と昨午前から行われ、学校、ボランティア、地域の一環で
は元氣あふつて居ります。今年、元氣で、全く成程いい
状態であります。五十年前から今の中に入りやうが出来果ち、完結
第三回のお呼びかけであるかも知れません。
三十歳のお時に生まれて目標としたことを是非達成したいと思
つた。胸の中に世に託されたことに、これは奇蹟に近いといひ
に承りましたとも思っています。定年後の近況です。
平成二十一年二月二十四日

神奈川県
秦 有 昇

自衛隊退職後六年が過ぎよ
 うとしています。
 第二回目の転機を迎え、
 趣味の充実に方向転換
 しようと考えています。

※20年3月信友会幹事と下番
 しきり「関係者」会場の方には
 お世話になりました。

神奈川県
 石川 彦男

昭和三十年初、――（？）――で始まる電文を
通校教室で受けて以来、想い出は多々ですが、人秘電
報翻訳、新制度の生徒教育、D通信初の部外工事通
信現職、三次防通信業計独立電信機械化予算折衝と
関連編制映像伝送隊編成、WACA配分E群編制案索、
NEA初の通信統括会防通信計画、地域災害派遣計
画、骨幹通信研究と衛生、検閲関係ほか、長い間大変
お世話になりました。昨秋久里浜駐屯地記念日に衛生
通信車他の行進を目の前に見て隔世の感でした。多事
の時節ですが、ますますの「発展を祈念致します。

老々今護八年半。変化は
期待できず。介護保険の活
用と自助努力により施設入
所も先送りする覚悟です。
週一回の真向法体操教室
で、今秋六段、八十五才
で、八段と目標に健康維持
し、便利と求め考えと、
を奪った社会に警告と発し
ながら頑張りうと思ひます。

[illegible]

前回は、「少人床居して不全
をなす」心境を表したか、今
也「少人多忙にして、充實
」の時期を迎えていま可。
これ健康維持のお陰で、
趣味は、身も助ける事を痛
感していま可。今後、正直
接的ボランタリー、
少々居てゐる。今日此頃
す。

新茶の果
佐北水磨庵

個人的には
平成二十一年は五十周年
五月にオールソフィアンの集いで卒業五十年の
金祝 十月に幹候同期の五十周年全国大会を東
京で予定。 全国大会は三十五周年に久留米・
四十周年札幌・四十三周年松島・四十六周年神
戸で実施され次回が五回目です。 市ヶ谷会館
で会食している仲間が実行委員となり準備中で
す、半世紀も経つと出席者数が気懸りですが、
残る五十周年は金婚式で七年後の八十歳は？

退官し三年半、六月に還暦を迎え、仕事、両親介護、ボランティアと充実の日々を送っています。

ボランティアでは、神奈川県の大井町市にある、大井町市ボランティアセンターとして、微力ながら青少年育成に参画しています。

会員の中に、九十五歳の現役剣士がおられます。元氣の秘訣は、「日々の鍛錬」「若い人々との交流」「おしゃべり」のようです。

私などは未だ「ハナタレ小僧」です。

鈴木 健

神奈川県
鈴木 健

神奈川県
鈴木利孝

鈴木知子

鈴木 肇

鈴木昌夫

神奈川県
鈴木昌夫

関 義 雄

田口多美男

神余"果
國坂忠彦

田中希穂

田平嗣人

神奈爆 田丸菊夫

高橋清

高橋春信

神奈川
高橋 英彰

縣 高橋直吉

應然家用

川崎 雄富

三年前、脳梗塞になりました。家族の協力により、少しづつ元氣を取り戻してゐます。週一回、デイサービスへ、リハビリに行つてゐます。家族と一緒に、散歩を兼ねて、スーパ―へ買い物に行くと、楽しみにしてゐます。神奈川県 藤田和彦

神奈川県 松田正幹

漸く老衰を感じ、既に懐
慨もなく、自負もなく、た
だ感謝あるのみ、の昨今です。
信反会が私種の故郷とし
て、また希望の新天地とし
て益々発展されるよう心
から祈りしています。
神武川果和敏

老後は故郷の都城で晴耕雨
読の生活をと考えておりま
したが、未だに実現してお
りません。高齡者デイサー
ビス施設の送迎運転手の仕
事、高校同窓会の役員、元
所屬部隊のOB会役員など
の活動で時間を持って余さ
ないようリズム感をもって日
々暮れております。

信友会の四十五周年にあたり事務局の皆様は御世話になりました。温かいお返事をありがとうございました。信友会の

信友会の益々のご発展を祈念し、失礼を致します。



元気です。(唐津鏡山山頂から、虹の松原西端を背景として)
神奈川
森 康雄

信友会会員となり二十年が経過しました。現役時代は研究開発の仕事が主体で、果たして役立つものが開発できたのかと心配していましたが、過日任務は達成されていたとの証を頂き安心しました。古希を過ぎましたが、過に三日は若い女性を相手にスポーツダンスを楽しんでいます。

なり通
の進歩を卒業して二十
前段の十一年は驚くばりです。
役の十一年は社会保険界で後
仕事をしてのます生きているま
と若千の小遣いを得ていま
す。趣味の山は温泉重視に
らつたので、若いときで
うましの山は温泉重視に
なり通
の進歩を卒業して二十
前段の十一年は驚くばりです。
役の十一年は社会保険界で後
仕事をしてのます生きているま
と若千の小遣いを得ていま
す。趣味の山は温泉重視に
らつたので、若いときで
うましの山は温泉重視に

2006年8月に退官して
まるる年がたちます。非常
呼集の夢をやっと見る
りました。退官後は横浜の
保土ヶ谷のヤナセテックに
お世話話になつています。
さい会社です。時々現場
応援にでたりと充実した毎
日を送ってます。今後、も
よろしくお願ひします。

近況報告。58才時に電檢三種の資格を取得して60才で(勸)閑東電氣保安協会に就職す。10年が過ぎ元氣に過ぎず。ていします。当初の様々な苦勞を経て2年が過ぎ仕事に慣れまし。自衛隊中央病院で傷発病。幸い一ヶ月で職場復帰手術。中病に感謝感激です。

神奈川県 山田 修

今年は二週間のハワイ旅行
を一歳半の孫と共に楽しん
だ。理由はタイムシェアの
コンドミニアムを手残
りの人生を樂しむつり。
購入したのは損か得か？
未だ判らない。十年以上迄
用でなければ得要は孰年を
得得。
程得。

A. O. C. 33期の皆携おえ氣で
すか。昭和26年K初めで
無線機に触つて以來通信業
勢に携つて約30余年、現在
の進家した等には想像外のこと
です。今はお蔭様で、
もかく日々々々もそれなり
して居ります。通信科より
益々の発展と不世話に
なつた。
天岡期星の多筆を携
神奈川県分庁司

遺言を以て命に委ね、
 安んずることを望む。

しと同オンを行てで
みの窓コで奮をもす経
の交・うい起防、。年
単遊同ナましぎ頭体劣
身と期イすてたの力化
隠、。こ。、いボ低を
居孫自とア雑のケ下痛
生の衛にワ学ではは感
活成隊気テに、努自す
で長のをナい好め然
すが知ツイそ奇てと今
。楽友け・し心進し日

神奈川県

依田文彌

鎌倉彫喜助会名誉会長
目衛自存
有言実行
昭和20年8月1日
神奈川県
久次甚川

一日二時間のPCと一時間のウォーキング、月三回のハイキングを目標に頑張っている。

次は終期高齢者？末期高齢者？と呼ばれるか、少しだけ夢と希望を持ちたいものである。

川島 奈神
雄俊 倉米

福井工業大学での教員生活も二十五年になろうとしています。この間の教育現場の大きな変革を見ながら過ごせたことは幸いでした。自衛隊の若い人たちの活躍の姿を見ると、教育に携わるものには拍手を送りたい気持ちに駆られます。

福井県 佐伯部々波

過日 暇を 診断 へ 庚 特別
 後 遺 老は 認め られ ず も 諸 病
 併 発 通院 へ 退院 へ 繰返 しの 味
 今 度 あり 町 有 紀 数 協 会 長 へ
 辞 任 し 侍 返 以 降 三 十 六 年 地 域 の
 役 職 も 終 へ て 勤 め 終 へ 後 は 長 男 に 譲
 り ま せ ぬ 未 だ 農 業 と の 縁 が 切 れ ず
 ほ づ け と 米 造 り を 続 け て お り ます
 今日 ある を 諸 先 輩 方 に 感 謝 し 益 々 健
 勝 し 会 の 開 展 も い っ ぱ い 努 力 申 し 上 げ
 今 後 共 進 致 し 希 願 致 し ます
 長 子 高 橋 敏 夫

信友会に於ては、ましては創立四十五周年記念会としてござります。小生も歳暮を持ちまして頗る元氣に送日致しております。現在健康保持を主眼に中部大学にて樹不定管理の補助員として週四日勤務いたしております。元氣であれば、二十歳一定年の予定です。

さて、最近氣になることですが、二三羅列致してみました。新聞テレビ等マスコミの報道が事実とするならば、敢て「戦国」としての自衛隊の本質は？、次にやはり日本國は資源の乏しい國である、この國にふさわしい生活様式の再構築が必要である、更ロシア軍の精強な中国の投資強国に、此に必要の平和と主權の万端、専断犯罪の多発等々、言ひ出せばきりがありませんが多少加齢からくる老患も含んでいるように思います。

最後になりますが、信友会並びに食員の皆様のご益々のご機體と御発展を心もようしあげます。

敬具

坂井 豊

信友会 代表 坂井 豊

六月の定期検診では異常なし。
但し、体力と脳の衰へは齡相應
？こちらへ移住して十年。相変
わらず米・野菜作りの毎日です。
好きなゴルフも楽しんでいます
が、飛距離が落ちた分、スコア
が伸びず。しかし、エイジシユ
ートが夢。

路傍の石

「路傍の石」を信条に健康であ
る自分に感謝して、毎日只ひた
すらに休と動かし、汗をかき、
少しでも社会に役立つよう努力
しております。そしてよく寝る
生活をしております。

名古屋市長 蟹江清治

體のあちこちに不具合を自
 覚する必、まあ、元氣に
 暮してゆります。
 去る七月二十日、第三〇
 六基地通信中隊の創立五十
 周年記念行事が開催され、
 五年振りに多くの先輩、同
 僚、後輩の懐かしい姿に接し
 意義深い一日を過しました。

昭和三十年通信学校に入校した紅顔の少年も来年は古稀を迎え、人生の終末期に入ろうとしています。先輩、同期の計報に接することが多くなり、「人は何のために生まれ、何をして、どこへ行くのだらう」の思いを強くしています。

社会保険庁や保険会社等の官民の不祥事を知るにつけ、「目的意識の欠如」「使命感の欠如」で、昔我々がよく言われた「税金泥棒」ではありませぬ、まさに「仕事をしていてつもうり」の「給与泥棒」ではないでしようか。悲憤慷慨しながらも、なんとかと穏やかに、のんびりと過ごしたいと願っています。

三重県 仁木一男

既一見無いようであるのが
 悪性腫瘍の十数年前、直腸の
 症、ヘルニアの手術等々、患
 何れも早期治療の機会に恵
 まれ、大過なく今日に至る。
 昨年、の男性、平均寿命は七
 十九、二才、喜寿を迎えた、
 今日、日々感謝、歳相応に
 過ぎ、しなく思つております。
 京都府和歌山

近況 傳年修二十年 宇治
 に永住。日々早朝散歩。仏
 菩薩特に空海を考之自然に
 対応しておりす。一つ
 ある通枝部長「大石は我れ
 一つある医師天地一枚我れ
 病なし」一つ空海即身或仏
 愛日々大先輩何如お遇しで
 すか。これ { も御身ご
 大切に。20日 岡中富三

年 齢 相 応 に あ ち こ ち が 痛
ん で き ま し た が 元 氣 で す。
活 動 範 囲 を 狭 め て 森 林 保 護
ボ ラ ン テ ィ ア 旅 行 昨 年 で や め
今 は 水 泳 ・ ス ポ ン ジ テ ニ ム
イ ・ 英 会 話 ・ 朗 読 等 を 楽 し
ア ・ 家 庭 菜 園 を 楽 し ん で
せ ず 頑 張 ら ず 一 人 で す。
大 阪 森 本 圭 治

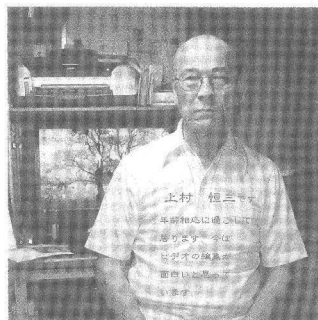
昭 和 36 年 6 月 産 業 界 での 活
躍 を 見 て 陸 軍 通 信 課 での 若
年 退 職 高 度 成 長 の 波 に 乗
り 目 標 達 成 未 だ 近 老 妻 と 喜
の 二 人 暮 り だ す が 近 老 妻 と 喜
む 長 男 次 男 夫 婦 と 高 々 小 住
2 の 孫 四 人 共 々 婦 人 高 々 小 住
生 活 を 感 謝 し て お り ま す。
大 阪 市 大 田 区 美 旗

退 官 後 三 十 有 余 年 自 衛
隊 勤 務 二 十 六 年 今 年 勤 務
十 三 年 五 月 迄 自 衛 隊 勤
ま ず が 一 人 自 衛 隊 勤 務
が 正 規 国 防 軍 と な る 事
を 願 っ て い ま す。
会 員 諸 君 の 御 健 勝 を
祈 念 致 し ま す。
大 阪 市 大 田 区 美 旗

定 年 退 官 後 三 十 有 余 年 自 衛
隊 勤 務 二 十 六 年 今 年 勤 務
十 三 年 五 月 迄 自 衛 隊 勤
ま ず が 一 人 自 衛 隊 勤 務
が 正 規 国 防 軍 と な る 事
を 願 っ て い ま す。
会 員 諸 君 の 御 健 勝 を
祈 念 致 し ま す。
大 阪 市 大 田 区 美 旗

平 成 二 十 年 四 月 二 十 日 付
を 終 了 し 第 二 の 人 生 の ス タ
ー ト を 切 り 替 へ 自 衛 隊 勤 務
第 二 の 人 生 を 切 り 替 へ 自 衛 隊 勤 務
た い 思 っ て い ま す。
友 会 員 一 年 生 と な り ま す。
す け び 頑 張 ら ず 一 人 で す。
大 阪 市 大 田 区 美 旗

昭 和 48 年 定 年 退 職 後 三 十 有 余 年 自 衛
隊 勤 務 二 十 六 年 今 年 勤 務
十 三 年 五 月 迄 自 衛 隊 勤
ま ず が 一 人 自 衛 隊 勤 務
が 正 規 国 防 軍 と な る 事
を 願 っ て い ま す。
会 員 諸 君 の 御 健 勝 を
祈 念 致 し ま す。
大 阪 市 大 田 区 美 旗



住所 兵庫県
氏名 上村 恒三

退 官 後 三 十 有 余 年 自 衛
隊 勤 務 二 十 六 年 今 年 勤 務
十 三 年 五 月 迄 自 衛 隊 勤
ま ず が 一 人 自 衛 隊 勤 務
が 正 規 国 防 軍 と な る 事
を 願 っ て い ま す。
会 員 諸 君 の 御 健 勝 を
祈 念 致 し ま す。
大 阪 市 大 田 区 美 旗

信 友 会 の 皆 様 に お か れ ま
す。 年 々 の 相 友 迎 知 え 己 年
で 一 年 の 孫 齢 相 友 迎 知 え 己 年
花 年 間 の 孫 齢 相 友 迎 知 え 己 年
示 得 ば 思 っ て い ま す。
要 求 良 好 思 っ て い ま す。
理 解 者 と し て 今 後 頑 張 ら ず 一 人 で す。
大 阪 市 大 田 区 美 旗

昭 和 48 年 定 年 退 職 後 三 十 有 余 年 自 衛
隊 勤 務 二 十 六 年 今 年 勤 務
十 三 年 五 月 迄 自 衛 隊 勤
ま ず が 一 人 自 衛 隊 勤 務
が 正 規 国 防 軍 と な る 事
を 願 っ て い ま す。
会 員 諸 君 の 御 健 勝 を
祈 念 致 し ま す。
大 阪 市 大 田 区 美 旗

退 官 後 三 十 有 余 年 自 衛
隊 勤 務 二 十 六 年 今 年 勤 務
十 三 年 五 月 迄 自 衛 隊 勤
ま ず が 一 人 自 衛 隊 勤 務
が 正 規 国 防 軍 と な る 事
を 願 っ て い ま す。
会 員 諸 君 の 御 健 勝 を
祈 念 致 し ま す。
大 阪 市 大 田 区 美 旗

信 友 会 の 皆 様 に お か れ ま
す。 年 々 の 相 友 迎 知 え 己 年
で 一 年 の 孫 齢 相 友 迎 知 え 己 年
花 年 間 の 孫 齢 相 友 迎 知 え 己 年
示 得 ば 思 っ て い ま す。
要 求 良 好 思 っ て い ま す。
理 解 者 と し て 今 後 頑 張 ら ず 一 人 で す。
大 阪 市 大 田 区 美 旗

定 年 退 職 後 三 十 有 余 年 自 衛
隊 勤 務 二 十 六 年 今 年 勤 務
十 三 年 五 月 迄 自 衛 隊 勤
ま ず が 一 人 自 衛 隊 勤 務
が 正 規 国 防 軍 と な る 事
を 願 っ て い ま す。
会 員 諸 君 の 御 健 勝 を
祈 念 致 し ま す。
大 阪 市 大 田 区 美 旗

昭 和 48 年 定 年 退 職 後 三 十 有 余 年 自 衛
隊 勤 務 二 十 六 年 今 年 勤 務
十 三 年 五 月 迄 自 衛 隊 勤
ま ず が 一 人 自 衛 隊 勤 務
が 正 規 国 防 軍 と な る 事
を 願 っ て い ま す。
会 員 諸 君 の 御 健 勝 を
祈 念 致 し ま す。
大 阪 市 大 田 区 美 旗

退 官 後 三 十 有 余 年 自 衛
隊 勤 務 二 十 六 年 今 年 勤 務
十 三 年 五 月 迄 自 衛 隊 勤
ま ず が 一 人 自 衛 隊 勤 務
が 正 規 国 防 軍 と な る 事
を 願 っ て い ま す。
会 員 諸 君 の 御 健 勝 を
祈 念 致 し ま す。
大 阪 市 大 田 区 美 旗

信 友 会 の 皆 様 に お か れ ま
す。 年 々 の 相 友 迎 知 え 己 年
で 一 年 の 孫 齢 相 友 迎 知 え 己 年
花 年 間 の 孫 齢 相 友 迎 知 え 己 年
示 得 ば 思 っ て い ま す。
要 求 良 好 思 っ て い ま す。
理 解 者 と し て 今 後 頑 張 ら ず 一 人 で す。
大 阪 市 大 田 区 美 旗

小生、昨年八月来入退院
の、返した肝臓、当初は肺
癌で、ある葉、探して一年
未だ見付かずに、併せて手
脚、更に、頸、腫、の併せて
張、不自由になり、ました
三島、呉、市、神、山、三、丁、目、之、
三、〇、一、二、〇、
堀、川、義、之、

信友会、四十、五、周年、おめで
う、ご、ご、い、ま、す、私、は、平、成、
十、五、年、に、退、官、し、島、で、再、就、
職、す、る、も、翌、年、母、が、病、に、倒、れ、
父、も、高、齢、で、介、護、が、必、要、と、な、
った、ため、実、家、に、帰、り、日、本、
一、の、清、流、で、高、津、川、上、流、の、大、
自、然、の、中、で、介、護、の、傍、ら、野、菜、
作、り、に、挑、戦、し、時、々、成、果、を、広、
島、に、持、ち、帰、り、つ、て、お、り、ま、す、
島、本、教、之、

信友会、創立、四十、五、周年、を、迎、
え、誠、に、慶、び、に、お、も、て、ま、せ、ん、
私、は、後、期、高、齢、者、の、域、に、達、し、
我、が、心、に、感、謝、し、余、す、人、生、
今、ある、命、に、感謝、し、余、す、人、生、
余、強、く、輝、き、心、を、磨、き、な、が、ら、
余、暇、を、利用、し、グ、ラ、ン、ド、ゴ、ル、
フ、で、人、と、の、知、を、大、切、に、し、て、
い、る、昨、今、で、す、
高、橋、良、則、

皆、さん、の、清、祥、に、お、活、躍、の、事、
と、お、慶、び、に、お、も、て、ま、す、
望、望、予、備、隊、創、設、と、共、に、入、隊、
し、自、衛、隊、で、停、年、に、お、も、て、
で、勤、め、ま、し、た、回、を、愛、す、
気、持、に、意、り、は、な、く、回、が、平、
和、で、正、しく、進、み、発、展、す、
る、こ、と、を、願、つ、て、居、り、ま、す、
山、口、県、下、松、谷、清、

平成、七、年、三、月、京、都、宇、治、で、退、
官、し、た、某、社、に、就、職、し、ま、し、
た、が、一、年、半、は、妻、と、前、に、退、職、
ま、し、た、今、は、年、を、感、じ、る、痛、
い、な、ど、言、い、な、が、ら、年、を、感、
な、ど、言、い、な、が、ら、年、を、感、
の、基、で、野、菜、を、つ、く、り、ス、ロ、
ライ、フ、し、て、お、り、ま、す、
香、川、隆、
西、原、隆、

数、年、前、に、郷、里、の、多、度、津、町、に、
帰、り、早、速、ニ、ル、バ、ー、人、材、セ、
ン、タ、ー、の、会、員、と、な、つ、た、他、
地、区、の、交、通、指、導、員、自、治、会、
や、福、寿、会、の、役、員、を、引、受、け、
地、域、の、安、全、を、保、つ、つ、て、
勤、に、精、出、し、て、協、力、
し、て、い、ま、す、お、陰、
で、や、つ、と、地、元、に、定、
着、し、つ、つ、あ、り、ま、す、
香、川、隆、
西、原、隆、



香川隆
西原隆

私、は、以前、心、筋、梗、塞、で、バ、イ、
ス、手、術、を、受、け、ま、し、た、お、陰、
で、今、ま、身、の、回、り、の、お、か、
て、い、ま、す、何、と、か、で、す、感、
念、に、お、も、て、ま、す、自、家、の、改、修、
を、し、て、い、ま、す、
皆、様、の、後、と、も、お、幸、せ、に、お、
る、こ、と、を、祈、つ、て、お、も、て、ま、す、
ま、機、嫌、あ、う、
香、川、隆、
西、原、隆、

二、〇、二、五、年、リ、ニ、ア、の、管、業、
運、転、一、首、都、園、一、中、京、園、が、
開、始、さ、れ、る、と、い、う、一、九、六、
二、年、の、研、究、開、始、か、う、一、九、
で、四、十、六、年、の、実、用、化、ま、
十、三、年、の、夢、の、超、特、急、は、
走、り、出、す、技、術、の、研、究、開、
通、信、一、技、術、と、同、様、諸、兄、
の、努、力、が、期、待、さ、れ、る、
福、岡、県、
天、岡、正、之、

小生、の、老、兵、地、域、の、健、康、を、
老人、会、の、世、話、後、と、奮、戦、努、力、
夫、般、前、者、の、広、報、紙、に、母、の、認、知、
症、介、護、体、験、記、(後、害、を、想、と、
徘徊、に、対、心、)と、掲、載、さ、す、
と、も、心、は、切、実、極、ま、る、救、済、の、者、を、
己、の、拙、文、と、恥、じ、つ、つ、あ、ら、う、と、
燈、耐、片、子、に、後、者、掲、載、用、の、原、稿、に、
ハ、ン、と、走、り、ま、す、今、日、の、頃、ナ、リ、
福、岡、県、
飯、田、誠、

福、岡、の、今、来、で、す、現、在、
通、信、工、事、及、び、通、信、電、氣、機、
器、製、造、業、の、会、社、で、公、共、管、業、
を、担、当、し、て、い、ま、す、防、衛、
B、は、私、が、初、め、で、失、敗、の、
入、電、源、機、器、の、技、術、指、令、書、
J、T、O、の、作、成、に、苦、勞、し、
い、ま、す、会、員、の、皆、様、の、益、々、
の、ご、発、展、を、祈、念、致、し、ま、す、
福、岡、県、
今、利、文、

近、況、現、在、ワ、タ、半、自、由、人、の、生、
活、ク、年、三、ケ、月、特、病、の、腰、痛、
リ、療、育、リ、回、通、院、相、変、ジ、
の、瘦、身、回、通、院、相、変、ジ、
た、ま、に、植、樹、地、の、管、理、を、
の、が、野、球、に、熱、中、し、て、
と、戯、れ、る、生、活、で、す、
福、岡、県、
大、熊、俊、夫、

私、は、独、居、老、人、で、す、健、康、な、身、
体、を、授、け、て、く、れ、た、父、母、に、感、
謝、し、て、い、ま、す、お、陰、で、テ、ニ、ス、
ダ、ン、ス、や、タ、ー、お、陰、で、テ、ニ、ス、
六、日、で、か、け、て、楽、し、ん、で、い、ま、
す、自、由、に、生、活、し、て、い、ま、す、
食、食、住、等、を、管、理、す、る、こ、と、は、
大、変、な、こ、と、で、す、老、人、の、地、
り、方、を、学、ん、で、い、ま、す、
福、岡、県、
満、池、秀、夫、

第、三、年、から、十、三、年、経、過、し、
施、設、の、人、生、を、介、護、者、人、保、健、
す、い、施、設、の、運、営、は、厳、し、い、現、
若、い、施、設、の、運、営、は、厳、し、い、現、
状、で、す、利、用、者、を、見、て、い、る、と、
施、設、の、利、用、者、を、見、て、い、る、と、
健、康、で、あ、る、と、言、う、事、の、大、切、
さ、が、分、り、ま、す、
福、岡、県、
後、藤、茂、

フ、リ、ー、の、網、球、業、統、行、中、で、
す、四、年、前、に、千、葉、県、佐、倉、市、
か、う、福、岡、市、へ、引、越、し、ま、し、た、
海、が、近、い、の、で、潮、干、特、に、魚、釣、
ヤ、フ、リ、ー、の、網、球、業、統、行、中、で、
ホ、ー、ク、ス、戦、衣、履、近、い、の、で、
名、水、汲、み、等、々、地、方、を、満、喫、
持、つ、て、い、ま、す、な、が、ら、体、力、維、
持、の、ため、昨、年、か、ら、卓、球、を、
始、め、ま、し、た、
福、岡、県、
佐、藤、忠、

近、況、退、職、し、て、から、早、や、二、十、年、こ、の、間、再、就、職、を、十、五、年、勤、め、
その、後、「パ、ソ、ン、指、導」や「趣味、の、写、真」「野、菜、作、り」等、と、
毎、日、の、生、活、を、概、ね、元、氣、に、楽、し、み、て、来、ま、し、た、が、昨、年、の、
十、月、頃、か、ら、急、に、不、整、脈、が、ひ、ど、く、な、り、今、年、の、二、月、か、ら、計、四、回、程、
カ、テ、リ、ア、プ、レ、シ、ョ、ン、治、療、を、受、け、た、が、完、治、せ、ず、今、は、
後、期、高、齢、者、と、言、わ、れ、て、も、「わ、が、色、欲、い、ま、だ、微、か、に、残、る、の、に、」
「青春、と、は、人、生、の、ある、期、間、を、言、う、の、で、は、な、く、心、の、機、能、を、
言、う、の、だ、年、を、重、ね、た、だ、け、で、人、は、老、い、な、い、理、想、を、失、う、時、に、
初、め、て、老、い、が、く、る、人、は、信、念、と、も、に、若、く、疑、惑、と、も、
に、老、ゆ、る、希、望、ある、限、り、若、く、失、望、と、も、に、老、い、朽、ち、る、」
今、後、は、こ、の、「青春、と、は」の、詩、の、心、で、生、き、た、い、と、願、う、昨、今、で、す、
福、岡、県、
辻、三、郎、

退、官、か、ら、早、く、も、十、八、年、の、
歳、月、が、過、ぎ、去、り、ま、し、た、後、期、高、
に、何、日、の、近、況、だ、う、い、う、に、
投、稿、で、ま、す、お、陰、で、ま、す、
信、友、会、の、皆、様、方、の、ご、清、幸、を、
心、か、う、祈、念、し、て、お、り、ま、す、
福、岡、県、
中、西、明、

福岡県
平野 芳信

村岡浩一郎

信友会は来年四十五周年を
迎ふ先輩方々の会の発展に
並々ならぬ御勞苦に敬意を
表へたいと思ひます。
私も来年退官二十年を今では
自介の健康管理も第一に年
相応のスポート、畑の菜園等
に楽しんでおります。
会員の皆様、御健勝も御多
幸を祈念いたしませう。

山本保康

自衛隊歴ニ六年、
 崎に來て三二年、
 今ヨで計六二年、
 分の爲に働いて來たが過ぎ
 去つたことは夢に似て残り
 は零、一切空と思える。
 終焉の時、は心安うかであり
 たい。日本人の魂が昔の樣
 に世界に誇れるものに還る
 ことを切に祈つてゐる。

長崎県 安藤 公一(82)

長崎
福井 由次郎

十九年三月に完全リタイ
アし、現在ゴルフ、囲碁等
を楽しんだり、隊友会活動
に参加したり、少々のボウ
ンデーアをして社会還元に
努めております。全国信友
会員の皆様の益々々由發展
と御健勝を祈念致します。

熊本 青木 周 益城 那 広

昭和53年春、通校の門を出て、
30歳の歳月が流れまじり、
平成2年度、年終は医療管理
会社で、若い社長を支え、現
役執行中です。少しづつ、世
の中の一役を、果たさうと
かゝる、と自問自答、毎日、
彼が、福田総理と同じ年が
す。彼が、頑張つています。
私と、と考えると、私と

池田 宏之
熊本 保

景氣低迷の中、斯界に於ても業務改革の波が押し寄せ、いまや破産、倒産、新倉、再生、息吹、充溢、溢れて、地城、再生、の、一助、とすべく、多くの青年起業家、等々、口角、沫を、飛ばし、下ら、生産性の向上施策を模索して、います。一日、是、好日、に、今、僕も、元氣で、続けます。

全員の皆様ご壮健にてお過
 しのことと拝察致します。
 お陰様で私も八十路 裏と
 二人のんびりと過していま
 す。しかしなから視聽覚の
 衰えは否めず会話や車の運
 転に戸惑いながら時おり操
 影や旅行を楽しんでいます。
 最後に会場の発展と皆様
 ご多幸をお祈りします。
 熊本 宇治山 龍彦

最近 現役時代の夢をよく
見るようになりました。
特に、一尉及び三佐時代に
妻の病気が重くて、何回も
退職を考えた頃の夢を見ま
す。良き上司、同僚をして
部下にも恵まれ、今在り事
を感謝しておりす。また
清正公と私で朝鮮半島を占
領した夢も見ました。

熊本果
梅北兼弘

信友会45周年
お祝い申し上げます!!
校区防犯協会長の他に
町内自治会長・公民館長
新設の公園愛護会長で超
多忙です。J A 6 B Y M
のハム歴は47周年です。
熊本県 二江崎 勝

時々の流れの味を痛感して
 おります。退職後二十年
 が経過し、後期高齢者に
 認定されました。地域老
 人会の役員として、老人の
 福祉向上、環境美化、防犯
 パトロール等に取り組んで
 います。信友会友諸兄の助
 勝を御祈り致します。

めでたい、友会、終り、す、周年お
 第二の仕立、のめり、後輩、の
 恩返しの地域事、の終り、後輩、の
 もた、の仕立、のめり、後輩、の



熊本市、英徳、

お陰様で今年(しんねん)は七十六歳、
思(おも)へば信友(しんゆう)会(かい)四十(よじゅう)周年(しゅうねん)
いろいろ祝(いわ)いの会(かい)の慶(けい)運(うん)はあ。
た(た)か、通信(つうしん)料(りょう)の統(とう)統(とう)と継(つぎ)統(とう)
発展(はつぜん)させている信友(しんゆう)に感謝(かんしゃ)
そして長年(ながねん)事務(じむ)局(きょく)としてのの
矢口(やぐち)先輩(せんぱい)に最大(さいだい)限(げん)の感謝(かんしゃ)
私も信友(しんゆう)のかたすみで、
元(もと)氣(き)にや、やかにかたすみで、
生きています。うりご報告(ほうこく)まで、
熊本(くもと) 崇(たかし) 五月(ごご)次(つぎ)

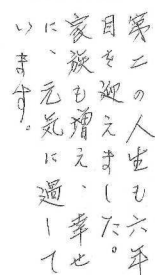
十九年八月、西部方面総監部監察官の職を最後に陸上自衛隊を退官致しました。通信科職種の幹部自衛官として奉職間、信友会の皆様には大変お世話になりました。有難うございました。現在は日本生命九州地区防衛省担当顧問として熊本に在住し、引き続き現役自衛隊員の皆様とお付き合い頂いております。

信友会の益々のご発展と会員皆様のご多幸・ご健勝を祈念致します。

熊本
良良

今月か過ぎました。昨年は
 退職間近まで就職先が見つ
 かりませんでした。会社
 からは冠婚葬祭の会社
 現在では冠婚葬祭の会社
 施設管理業務に従事して
 あります。自衛隊勤務で培
 った企画力・調整力等を活
 かし、楽しく仕事かやれるよ
 うなかけあひがあります。

熊本 濱 武 成 康



足田充

夏休み、横浜在住の長女が、
三人の孫娘を連れて里帰り。
我が家は一変、賑やか。
長女の仕度、料理の味付け等
と母親に似てきて微笑まし
くも、「短命遺伝」の雑念が、
よぎります。信じる生き方の
追求と多少の社会貢献の心
を保ち、七回忌後の供養
に繋げていきます。

すつ、御無沙汰いたして
ります。思えば、あちうも
こちうも不調り限り五体は
なりながら、お稀過ぎまで
生えれた事に感無量り現
ひ方。最近ではお頭り方も
心許可くたつて来反り諦観
してゐます。以後は観音様り
お念にぬるきゝにむかひ
す。

稽首

差出人不明

信友 今の2天辰
新 辰 子 巳 午 未 申 酉 戌 亥

第一問

信友会創立45周年
 お目出度うございす。
 皆様様各方面に上げてます。
 お慶び申しあげます。
 小生老骨に鞭うって
 社会に奉仕しようと思
 い現左伯人タクシー(協)
 に勤勞し下らて趣味の吟
 詠と菜園にしんで自然の
 を作れり楽しむ健康い
 とこれか毎日を送りま
 顔の
 大分県
 神志郡島男

序年級早や二十年と過ぎ
 業をやりハリに新体力を
 表してつます今や晴村西谷
 と奥一介にいてつます現役
 の時代は、防犯マイクで勤
 務取替りか同様の頭には有効な
 昔若輩としていま昨今どき
 今の通信レステムが進歩し又
 つつまずん心の上を喜しく
 こいごらの向上を望んでます

教員採用試験に絡む汚職事件は大分県民として情けなくてたまりません。また最近国内で多発している関く耐え難い数々の悲惨な事件、どうしてこんな世の中になったのだろうか、不思議に思う人は多いと思います。自由の人はきき難い身勝手さにより起る利益優先主義によるものか？子供や孫達の未来が心配です。

創五十四回斗おめでとう
 ございませう。読上でう
 の上司や先輩、同僚の消息
 や、通信斜取種、の動向等が判
 り、毎号楽しめていり余、
 ます。退官して二十余年、
 古希もたつて過ぎ、身体が
 諸所にガタが来ているが、
 幸いメタボにはならず、元
 に遇しておられます。

茅頭イ火年か
 一の三ム田に信
 レ体回で金と私友
 を操はテ曜四なり会
 ニ目とニ日反まの
 十標し暮スは歩す退皆
 四にな会の耕官操
 期頑が所練川作し
 張らに習内するて
 西フ通市る約
 親て健フ月の傍
 晴い席てニドろ

西 親晴

花庭刷み暑 暑とにど
鉢は、を、畑さ毎
が家と、パウに日何こ
並内い古ソ草元がだい
べうのう孝コ取気斯つし
ら担明真ンリなんけよ
れ当けとで、のな。
て。暮挿九老は調九立
い門れ入。人雜子十つ
ま前でし年会草。にた
すにすてののだこな途
。も。印歩圍け。のる端

鹿兒島県

田中 稻雄

平成二十一年は、信友会が創立四十五周年を迎える節目の年であります。

この三十二号は記念特集号として編集しました。二十数ページにわたる量ですが、無事、発刊することができました。これもひとえに会員皆様のご協力の賜物です。

記念号にあたり、現役四役の方に寄稿をいただきました。いつもは新着任時にお願ひしておりました。陸幕通信電子課長、補統通信電子部長には、在任間2回目のお願ひとなりましたが、快諾していただき感謝に耐えませ

「三十二号」は従来と違い、二つの大きな点があります。

一つ目は、機関紙面を大きくしました。「機関紙は字が小さくて読みにくい」と言うご意見をいただき、機関紙幹事で検討しました。従来はB4版でしたが、今回からA3タブロイド版にしました。



二つ目は、「会員だより」のコーナーです。

恒例により五年に一度「会員だより」のコーナーを計画し、会員の皆様に投稿を依頼しましたところ、1058通発送し、352通返信がありました。所在不明、ご逝去の連絡を除き、329名の方の近況を掲載しました。お忙しい中、大変ありがとうございます。

従来、いただいた近況を機関紙幹事がワープロ化していました。今回は、会員皆様の近況がよりわかりやすく、また、読む楽しさという観点から、新しい試みとして、会員の皆様の手書きをそのまま印刷するとともに写真や絵を掲載するようにしました。

掲載順序は、方面ごとにまとめようかとも思いましたが、会員名簿の順にしました。名簿に載っていない方もいらっしやいましたので、若干、順序がずれているかもしれませんがご了承ください。また、個人情報保護の観点から、都道府県までの掲載とさせていただきます。住所を全部書いていただいた方は、機関紙幹事で削除させていただきました。

今回は、さらに多くの会員の方々の近況等を載せることができたと折念しております。

また、「信友」では会員皆様のご投稿を歓迎しております。毎年夏ごろまでに、事務局宛ご投稿をお願いいたします。

最後に、事務局便りにありますように、永らく機関紙幹事として活躍された緒方氏が退任され、今村、佐藤の両氏が新戦力となりました。